地域住民との対話で生まれた
地域の交流拠点となる学校

川崎小学校（三重県亀山市）

本事例のキーワード

対話型設計　地域と連携　木材利用

事例のポイント

校舎の改築にあたり、教職員や地域住民が設計の初期段階から関わり、学校づくりに主体的に参画。校舎完成後も地域住民との交流が継続。

事例概要

亀山市立川崎小学校では、校舎の老朽化により防災面や安全面に課題を抱えていたこと、児童数増加により教室数が不足する状況にあったことから、旧校舎を取り壊し、「地域の中で育つ川崎っ子、地域が育てる川崎っ子」をテーマに新校舎を建設。改築に際しては、地域と学校が密な関係を築き、互いに学び・育ちあえる学び舎づくりを目指し、設計初期から教職員や地域住民等とのワークショップを継続して開催した。

多くの関係者の意見を反映しながら計画を進め、新校舎には、図書室とＰＣ教室を備えた「メディアセンター」や、地域住民らが気軽に立ち寄れる「ふれあい活動室」、屋内外の活動スペース「内のひろば」「外のひろば」「屋根のあるひろば」などを設置。ふれあい活動室をはじめとする地域共有ゾーンは、子どもたちが地域の方々とふれあい、学ぶ場として、また、地域の方々の活動の場として活用されている。

なお、亀山市では「亀山市公共建築物等木材利用方針」に基づき、公共施設における木材の利用を促進していることから、川崎小学校の改築にあたっても、ぬくもりのある校舎とするため、内部をできる限り木質化している。また、児童用机・椅子に県産材を用いることで、木材への親しみを持てるよう工夫している。

CO-SHA PLATFORM
CO-SHA Platform ウェブサイト
https://www.mext.go.jp/co-sha/

設計から工事・完成後まで、継続した地域とのかかわり

設計初期から教職員や地域住民とのワークショップを開催し、広く地域と情報を共有しながら事業を進めた。ワークショップにおいては、学校と地域が連携してどのように新校舎を使うのか検討し、それをベースに、ハード・ソフトの両面で議論を重ねた。結果として、例えば、ふれあい活動室をはじめとする地域共有ゾーンを設けることや、新JIS規格の教室用机に対応してゆとりある教室空間（約８ｍ×約9.5ｍ）を整備すること等が計画に反映された。

このような過程の中で、地域住民が継続して学校づくりに関わり、地域の祭りにおいて学校の基本計画をPRしたり、工事段階で各種イベントを企画するなど、主体的な取組が行われた。学校づくりに関わった地域住民は、開校後も学校・地域連携活動のキーパーソンとして活躍している。ふれあい活動室をはじめとする地域共有ゾーンは、子どもたちが地域の方々とふれあい、学ぶ場として、また、地域の方々の活動の場として活用されている。

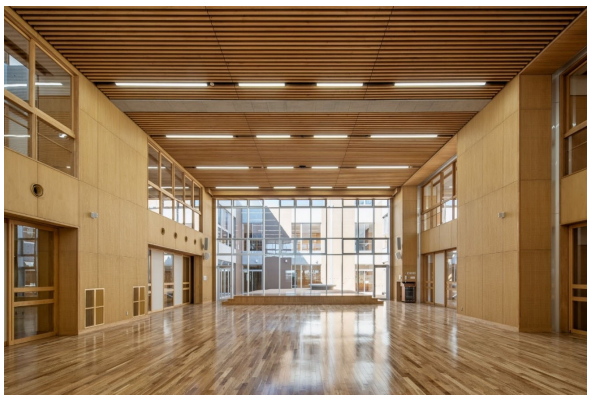
設計ワークショップの様子

体育館に実寸大の教室を再現し、
広さや棚の大きさを確認

地域共有ゾーンを活用した
ペーパークラフト

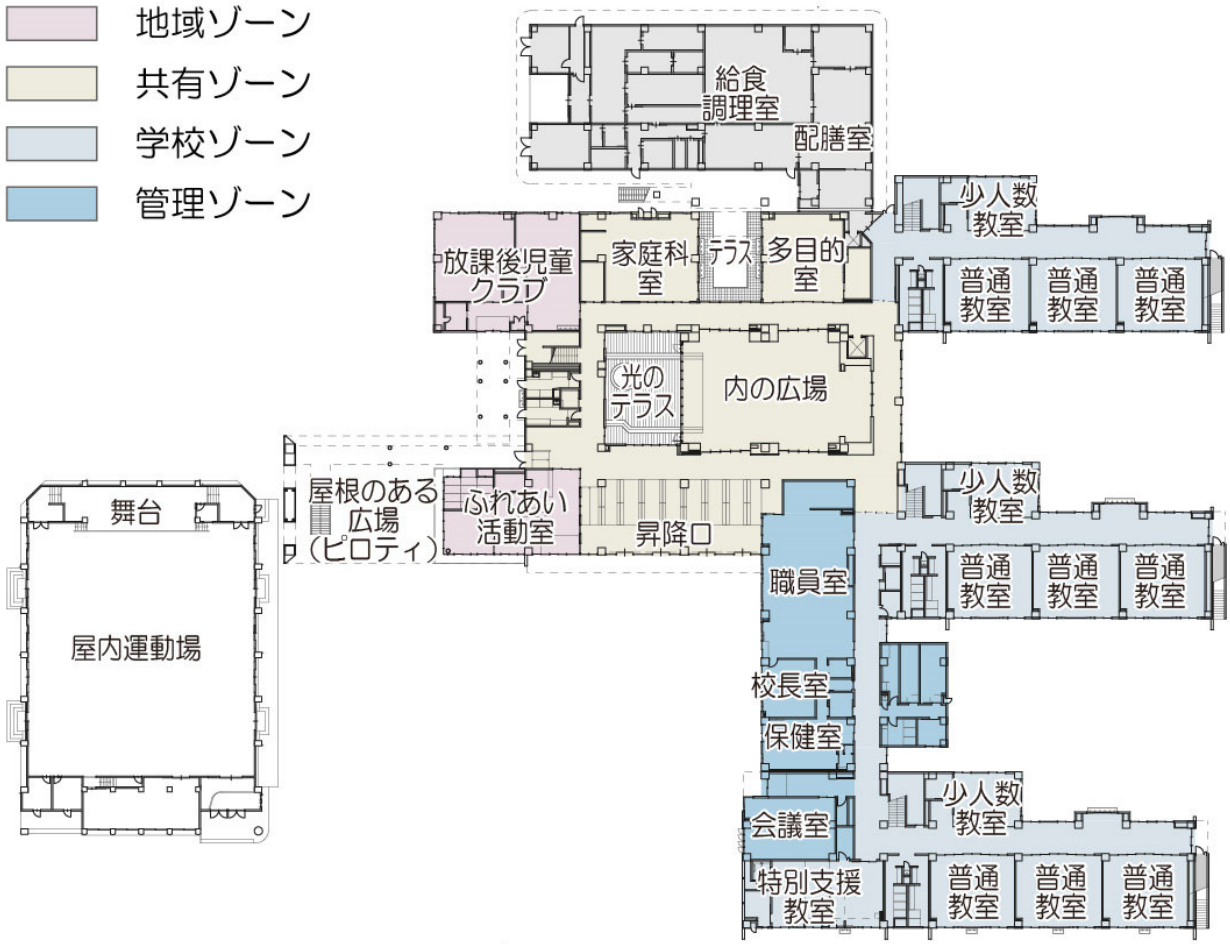
地域共有ゾーンを活用した
むかし遊び体験

学校の中心にある地域の活動拠点
「ふれあい活動室」
（内装は県産材を使って木質化）

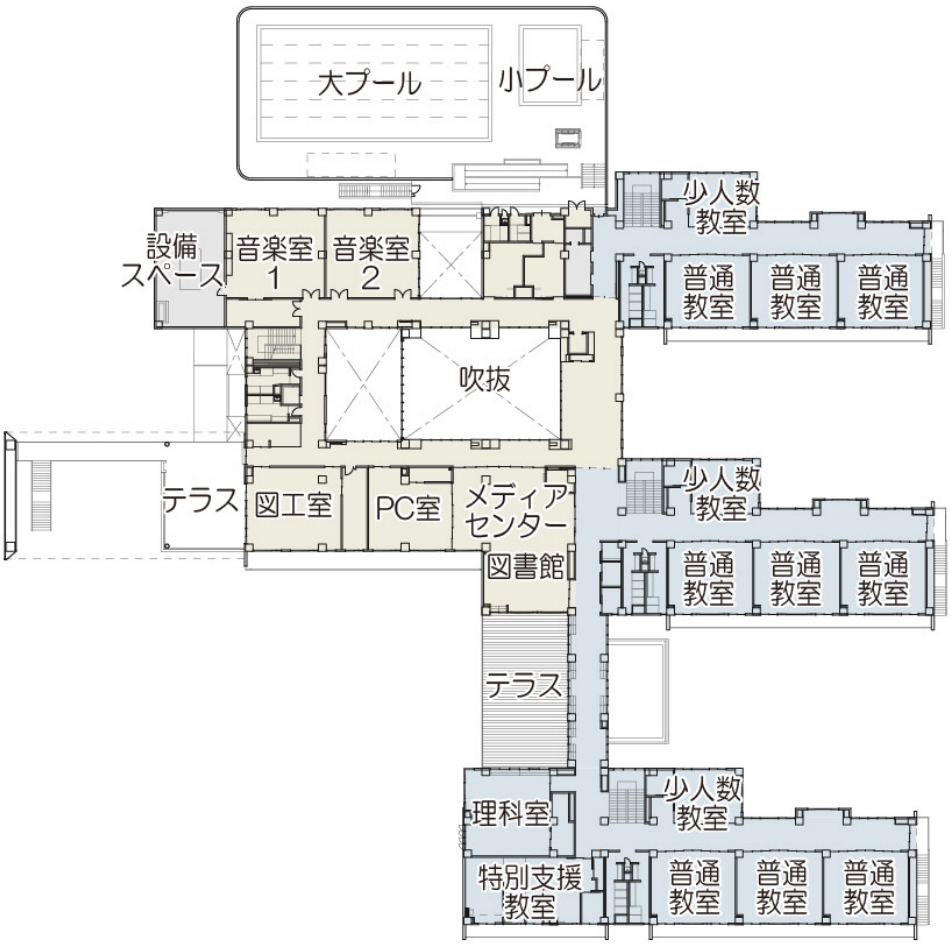


学校のシンボルとなる
２層吹抜の多目的空間「内のひろば」
（天井ルーバー等の内装を木質化）

1 階平面図


地域ゾーン
共有ゾーン
学校ゾーン
管理ゾーン
給食調理室
配膳室
放課後児童クラブ
家庭科室
テラス
多目的室
少人数教室
普通教室
光のテラス
内の広場
舞台
屋根のある広場（ピロティ）
ふれあい活動室
昇降口
職員室
屋内運動場
校長室
保健室
会議室
特別支援教室

2 階平面図


大プール
小プール
少人数教室
設備スペース
音楽室1
音楽室2
普通教室
吹抜
テラス
図工室
PC室
メディアセンター
図書館
理科室
特別支援教室

学校概要

川崎小学校
三重県亀山市

全体工期：平成28年６月～平成31年２月
学校規模：15学級、450人（特別支援学級　３学級　18人）
敷地面積：23,358㎡
延床面積：7,905㎡
構造：　　RC造（一部S造）２階建
※令和５年９月時点